

2016年7月8日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 高橋 進

アルメニア国イエグヴァルド灌漑改善事業
(協力準備調査(有償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年6月24日(金)14:00~17:20
- ・場所：JICA本部(1階111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：高橋委員、谷本委員、平山委員、村山委員
- ・議題：アルメニア国イエグヴァルド灌漑改善事業協力準備調査に係る最終報告書ドラフトに対する助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) アルメニア国イエグヴァルド灌漑事業協力準備調査最終報告書ドラフト
 - 2) ESIA 報告書案
 - 3) RAP 案
 - 4) スコーピング案への助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第71回委員会)

- ・日時：2016年7月8日(金)14:29~16:45
- ・場所：JICA本部(1階111・112会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 基幹施設を担当する水供給公社（WSA）と水路等を担当する水利用者組合（WUAs）に対して、各施設の維持管理に不可欠な内部規定の整備の重要性の提案を FR で記述すること。
2. 環境配慮の分野における組織・法令・基準・データ分析の現状を的確に反映するようギャップ分析等の記述を改め、FR に記述すること。

代替案の検討

3. 貯水池関連の代替案の検討結果に加えて水路についての比較検討結果も整理し、それらを一覧の形で FR に記述すること。

スコーピング・マトリックス

4. 「Misdistribution of benefit and damage」の項目については、供用後の評価が B-であることからその評価理由を FR に記述すること。

環境配慮

5. 5月末から6月末にかけて発生する強風により、建設時の粉塵等の影響が懸念されているため、周辺環境への影響の可能性を検討し、必要に応じて追加的な対応策を FR に記述すること。
6. 富栄養化や土中に含まれる塩分による塩害が懸念されるので、既存データに基づき FR の記述を充実させること。また、事業実施やモニタリング段階において、必要に応じて、対応が検討されるよう実施機関に働きかけること。
7. 既存灌漑施設の改修に伴う廃棄物とその処理等について、FR に記述すること。
8. 貯水池工事による準絶滅危惧種（NT）に指定されているヘビ等の貴重種・生態系への影響について、緩和策による回避の見込み等を FR に記述すること。
9. 貯水池の完成による観光面での影響について、可能な範囲で FR に記述すること。

社会配慮

10. 一時的な用地取得については永年的な用地取得と同様の補償がなされる計画であることを FR に記述すること。
11. 貯水池建設により水没する Community Lands の供出に対する地域還元策について、金銭以外の方策を含めて地域住民の要望を整理するとともに、ADB 等による他のプロジェクトにおける対応例を確認し、その結果を FR に記述すること。
12. 被影響住民から代替地に関する相談があった場合の対応について改めて検討し、その結果を FR に記述すること。
13. 苦情処理メカニズムについて、苦情の申立後の手続きを明確にするとともに、実施機関や地域住民の代表らで構成される苦情処理のための協議会等の組織の必要性について検討し、その結果を FR に記述すること。
14. 貯水池内における農地の表土の外部への移動について、想定可能な具体的方策を検討

し FR に記述すること。

15. 貯水池の建設に伴う毒ヘビの移動による周辺地域への影響を整理し、対応策を FR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

その他

16. モニタリング計画の各項目に対するモニタリング地点や頻度が不明であるため、可能な限り明確にし、その内容を FR に記述すること。
17. モニタリング計画とモニタリングフォームの間に不整合がないように FR に記述すること。

以上